

環境・まちづくり特別委員会 送付4-34

日本テレビ通り沿道まちづくりに関するオープンハウスのアンケートの詳細な集計報告  
を求める陳情書

受付年月日 令和4年12月22日

陳情者 提出者 1名

# 陳 情 書

2022年12月22日

千代田区議会議長  
桜井 ただし 様

日本テレビ通り沿道まちづくりに関するオープンハウスの  
アンケートの詳細な集計報告を求める陳情書

陳情者：  
住 所：  
電 話：



要旨： 日本テレビ通り沿道まちづくりに関するオープンハウスにおけるアンケートの  
詳細な集計の報告を2023年 / 月 / 5日までに求めます。

理由：

本年7月3日、4日に「日本テレビ通り沿道まちづくりに関するオープンハウス」が開催され、949名の方から回収されたアンケートの集計結果が第12回日本テレビ通り沿道まちづくり協議会で資料として配布されました。

アンケートでは参加者の住まい、年齢、在住・在勤・在学の別などの属性が問われた後、問1で地区計画変更に対して納得できるかできないかを5段階で評価し、さらに問2でその選択理由を意見として書くようになっていました。

回答者の属性を確認していることは在住者や在勤者あるいは年齢別の方々の意見やニーズをより細かく適切に把握できるので、大変意味があることです。また、単に「納得できる、できない」という選択肢で答えるのではなく、個別の意見を記載できたことは、住民としてとても安心致しました。

ただ、集計の際、番町地域（一番町～六番町）在住者の問1の結果は「納得できる」128名、「どちらかと言うと納得できる」75名、「どちらでもない」39名、「どちらかと言うと納得できない」63名、「納得できない」142名でした。つまり開発賛成派（納得できる＋どちらかと言うと納得できる）203名、開発反対派（どちらかと言うと納得できない＋納得できない）205名で、その差はわずか2名とされています。

しかし、問2の代表的な意見の抜粋を見ると「納得できる」「どちらかと言うと納得できる」と回答した方でも、建物の高さについて「高さ90mは抑えられないか」、「90mには不安がある」、「90mの建物が及ぼす日陰は極めて悪い影響を与える」、「60m以下で検討いただきたい」という意見を上げています。

住民の意見を正確に把握するためには、「どちらかと言うと納得できる」と回答された方々の意見を特に丁寧に知り、適切にカウントしなければ、住民が本来の意図することは異なる結果を導くことになるのではないのでしょうか。「どちらかと言うと納得できる」と回答された方75名とまた念のため「どちらでもない」と回答された方39名の意見の公開と、そのうち「不安、心配、反対など」と意見を上げている方々の数を明らかにして下さい。

以上